

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2020.3) 令和元年度:26.

開心術後患者のせん妄に対する早期離床の効果

酒井 周平, 島尻 麻由, 藤木 弥生, 片桐 実紀, 横山 直人,
井深 純志, 谷 紋佳, 村岡 法彦, 高山 拓也

開心術後患者のせん妄に対する早期離床の効果

○酒井周平¹⁾ 島尻麻由¹⁾ 藤木弥生¹⁾ 片桐実紀¹⁾ 横山直人¹⁾ 井深純志¹⁾ 谷紋佳¹⁾ 村岡法彦²⁾ 高山拓也²⁾

1)旭川医科大学病院 ICUナースステーション 2)同 リハビリテーション部

【はじめに】

A病院の集中治療室(Intensive care unit以下、ICU)では、2018年10月より理学療法士のICU専従化を開始し、術後の早期離床の確立を目指している。先行研究より、早期離床によってせん妄の発症やその期間が減少すること、そして入院期間が短縮することが明らかにされている。本研究は、理学療法士のICU専従化による開心術後患者のせん妄発症率やせん妄日数の減少への効果を明らかにすることを目的とした。

【方法】

診療記録を用いる後ろ向きの観察研究。理学療法士のICU専従前(2018年4月～2018年9月)とICU専従後(2018年10月～2019年3月)の開心術後患者を2群に分けて、早期離床の実施状況、せん妄発症率とせん妄日数、そして患者背景について比較をした。統計学的検定にはt検定やF検定、 χ^2 検定を用い、有意水準は5%未満とした。対象は、定期または臨時手術で開心術後にA病院ICUに入室した患者のうち、再開胸手術や術後に急変した場合、術後意識障害を併発した場合、そして小児は除外とした。本研究は、旭川医科大学倫理委員会の承認を得ている(承認番号:19048)。

【結果】

理学療法士のICU専従前群71名、ICU専従後群81名を対象とした。専従後群の方が専従前群よりも術後の端座位開始日(2.68日vs2.02日)は短縮傾向にあり、せん妄発症率(60.1%vs53.1%)の減少とせん妄日数(1.28日vs0.93日)の短縮に改善傾向は認められたものの、いずれも有意な差は認められなかった。また、患者背景について専従前群の方が術中出血量(2641mlvs1670ml, $p<0.05$)が有意に多く、気管挿管日数(2.17日vs 1.70日)は長い傾向、ICU入室日数(5.5日vs4.4日, $p<0.05$)は有意に長かった。年齢(68.1歳vs69.0歳)やSOFAスコア(9.4点vs9.6点)に差は認められなかった。

【考察】

専従前群の方が専従後群と比べて、術中の出血量が多く、気管挿管日数やICU入室日数が長いことから、せん妄をより発症しやすい状況にあったことがわかる。しかし、理学療法士のICU専従後の方が術後早期に離床が開始されていることから、せん妄発症率や日数に寄与している可能性も考えられる。創痛の程度や術前の認知機能などは評価できておらず、本研究の限界である。

【結語】

現時点において、理学療法士のICU専従化では、開心術後患者のせん妄発症率減少やせん妄日数短縮への明確な成果は得られなかった。これからも早期離床の定着に取り組み、せん妄への効果を追っていく必要がある。